

ソフトパワーで
大阪のさらなる未来を輝かせよう

2017.07

Sencia

[センシア]

AR開発者

一般社団法人大阪青年会議所 理事長

巻頭対談【川田十夢×岡部倫典】

テーマ「大阪の今と未来をAR(拡張現実)する」

特集「温故知新 大大阪時代を歩く」

【第4回】生活文化プロデューサー 小林一三が築いた
大阪急文化圏・梅田、そしてキタの未来

特別企画「上方文化を支えた、町人たちのエネルギー」
天神橋筋商店街×天満天神繁昌亭

「探訪・浪速の名匠」 本家 國重刃物店

写真: シャンデリアテーブル

上方落語の「定席」
我らが天満天神繁昌亭
今宵も繁昌大入り！



協力: 天満天神繁昌亭
大阪商工会議所



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

巻頭対談



大阪の今と未来をAR(拡張現実)する

※「AR」＝「Augmented Reality」(拡張現実)の略語。人が知覚する現実環境をコンピュータにより拡張する技術、もしくは拡張された現実環境そのものを指す。

J UKIの就職面接時に書いた「未来の履歴書」で構想したWebデザインとサーバ設計、全世界で機能する部品発注システム、マシンとネットをつなぐ特許技術をすべて実現した川田十夢氏。退社後は、「AR三兄弟」のユニット名で、AR技術を使った「文豪カメラ」や「どこでもドア」など現実と仮想の境界を飛び越える技術を開発。まるで未来映画さながらの夢のような技術を次々と実現する発想と実際の仕事で人びとを刺激しています。

ARで人間の五感を拡張し人間の感覚を超えたものを享受する。

理事長 本日は、貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。早速ですが、川田さんはARの技術を使ってさまざまな試みを展開されていますが、きっかけは何だったのですか。

川田氏 わたしは、JUKIという業務用マシンメーカーで開発者として10年間働いていました。その時、特許を取得したんです。それは、うまくミシンで縫った技術をアップロードし、他のミシンにインストールすると、最初から上手に縫える、という技術です。若かったので、浮かれてその技術を世界中でプレゼンしていたら、ベトナムで「そんな発明をされると、上手に縫える人の職業が奪われてしまう。私たちは文字が読めないから、針が折れた時、どこに発注していいのかもわからない。あなたならそれができます。そうした使い方をすれば、人工知能はもっと面白くなると思いますよ。」

大阪万博が開催されてもされなくても、やつちゃえばいい。やつちゃえばいい。

理事長 今、大阪では万国博覧会の招致を進めていて、来年の秋には決定するようです。万博開催が決まったら、ARを使って大阪の強みを発信していきたいと考えています。

川田氏 万博は楽しみです。僕は子どもの頃、筑波万博に行きました。会場では、科学と教養と夢のようなことが同時に起こっていました。覚えてるのは、ロボットが譜面を見てピアノを弾いていたことです。衝撃でしたが、夢みたいなことでも結構できてしまふんだな、と思いました。だから今、この仕事をしているのだと思います。大阪の子どもたちが、あの夢のような世界を生で見たら育つと思いますよ。

理事長 生で見るという原体験は、将来につながりますよね。

川田氏 そうですね。ですから、大阪万博の開催が決まっても決まらなくても、やつちゃえばいいんですよ。企業がお金を出してパビリオンをつくるのとは別に、商店街や町ぐるみでちょっと面白そうなの

を解決できるでしょ」と言われたのです。叱られた気分になりました。それで、ミシンにカメラをがさすと、ミシンの品番から逆算してそのミシンに合う針を表示し、そのまま注文できるシステムを開発しました。それがARでした。

理事長 Googleの眼鏡もARですよ。カテゴリを選択して町中を歩くと、見たものの価格帯などの情報が出てくるシステムだったと思います。

川田氏 視覚はやりやすいのですが、僕がやっていることは視覚に限りません。触覚や味覚などの五感を拡張し、人間の感覚を超えたものを享受したり、空間はそのままに過去や未来に行けるツールとして開発しています。

そこにある雰囲気、重力、お客様を巻き込んでいくARに興味がある。

理事長 確かに、ARという「見えるものの情報を提供するもの」という認識です。

川田氏 ARは、必ずしもテクノロジーを使うだけではありません。阪急百貨店梅田本店のリニューアル

ことが体験できるパビリオンをつくればいいんです。いろんな芸を披露すればいいんじゃないでしょうか。

理事長 かなり、面白いことができると思います。

川田氏 実は僕、2009年からAR忘年会というものをやっていたんです。プログラマーなどいろいろな職業の人が、自分のプロフェッショナルな技術を使って、宴会芸を披露するんです。僕がTV番組『情熱大陸』に出演した際に披露したネタも、すべて宴会芸から生まれたものなんです。人を楽しませてやろうと思った瞬間、ギアが入るんです。大阪の人はサービス精神が旺盛だから、パビリオンをつくったら、めちゃくちゃ面白いものになると思います。

青年の失敗は中年の活力になる。失敗を恐れずに、何でも挑戦すればいい。

理事長 今日、川田さんから夢のような話を聞いて、大阪だからこそできることがある、と改めて勇気がわいてきました。最後に、大阪青年会議所にメッセージをお願いします。

川田氏 僕は今に至るまでいろいろな失敗をしてきました。そういった苦い経験をしていると、中年になつて「あの時、こうしていればよかったな」と未練が残るし、今までの失敗をなんとか取り戻したいと思うようになります。それでがんばって、仕事が大きくなつていきました。ですから、青年のうちは、失敗を怖れずに何でも挑戦したいと思っています。僕の場合は、未練が中年以降の活力になっています。失敗はやがて栄養になるので、思い切つてやつてください。

理事長 今日、お話を聞いて励みになりました。本当に、ありがとうございます。



理事長 その企画は、ノリのいい大阪の特質に合っていると思います。私はそれが大阪の優位性だと思いますが、川田さんはどう感じていますか。

アル時のこけら落としで、「祝祭広場」に仕掛けたARは面白いものでした。大階段前に譜面台などを置き、お客様が指揮台に上がった瞬間、館内のBGMがピタッと止むんです。そして指揮棒を振り上げると、大階段のお客様のふりをして座っていた大阪フィルオーケストラの演奏者が、演奏を始めるというものです。

理事長 1〜2年前にはやったエグザキターのようですね。

川田氏 そうですね。今のテクノロジーは、若い人だけが使おうとしています。本当はあまりテクノロジーが居ないお年寄りが使つてこそ楽しいものだと思います。この企画をした時、あるおばあちゃんが祝祭広場にきてくれたんです。その方は指揮をした後、「私は音楽の先生が指揮者になりたかったけど、子育てに追われてできなかった。でも今日、ようやく夢が叶いました」とすごく喜んでくれたんです。そういうことはARじゃないとできない。モニターの中でやるのではなく、その場の雰囲気、重力、まわりのお客様といった現実を巻き込んでいくARに興味があります。



川田氏 おっしゃる通りで、この企画は、大阪だからこそやろうと思ったんです。大阪の人は、指揮棒を振ってくれると思いましたから。東京の人は、絶対にそういうことはやりません。注目を浴びたくないんです。

理事長 大阪の人は、人を喜ばせたいという感性も優れていると思います。ただ、喜ばせたらそれで満足して、その先に進めない。もったいないな、と思います。川田さんはこの大阪の特性を、どのようにビジネスに結びつけたいと思いますか。

川田氏 町中で、定期的に面白いことが起こるとわかつたら、町全体に活気が出ると思います。阪急百貨店では、ライオンキングで使われる打楽器を祝祭広場に置いて、誰かがそれを叩くと、大型ビジョンにキリンが映し出され、上手に叩くと、幕演じられるという企画をしました。ちょうど劇団四季の『ライオンキング』のロングランが決まったタイミングでしたが、大阪では特に、広告と舞台などの境界をなくした方がいいと思います。

理事長 それができるのが、大阪なんだと思います。

川田氏 大阪はユニークですよ。たとえば、大阪では劇場が芸人さんを育てています。それは東京にはないことです。今、人工知能に囲碁をさせたりしていますが、芸人を育てる人工知能があれば、それを東京で芸人さんのトレーニングに使うこと





運転を開始した木造ボギー車「1型」



開業当日の箕面有馬電気軌道梅田駅（1910年）



「最も有望なる電車」箕面有馬電気軌道株式会社発行（1908年）

補助路線として、川西池田―梅田間に電気鉄道敷設の計画も着々

阪急電鉄誕生のきっかけは、20世紀初頭に遡る。当時、経済の中心地だった大阪に人や物を運ぶ交通機関として、いくつかの私鉄路線の開設が計画されていた。この頃、舞鶴港から大阪へ物資を運ぶ阪鶴鉄道はすでに運行しており、その

計画中止となった支線に有望性を見出す

今でこそ大阪を代表する複合商業ゾーンとして知られているが、江戸時代以前は手つかずの低湿地帯だった。そこを泥土で埋め立てて田畑にしたことから「埋田」と呼ばれ、いつからか「梅田」と表記されるようになった。その梅田が発展を遂げたのは、阪急電鉄の梅田ターミナル駅開業と、大大阪時代の波に乗ってオープンした世界初のターミナルデパート『阪急百貨店』の存在が大きく影響している。

起人になって、創立に奔走します」。そして1908年（明治41）、大阪市との交渉の末、起点となる梅田駅が官営鉄道大阪駅のそばに造られることとなった。当時、梅田には大阪駅北側に貨物駅があり、阪神電車梅田駅も開業してい

社を退社しますが、中止となった新たな電車事業に可能性を感じたのでしよう。

箕面有馬電気軌道会社設立の追加発起人になって、創立に奔走します」。そして1908年（明治41）、大阪市との交



公益財団法人阪急文化財団学芸課長 仙海義之氏



阪神間開通を告げる新聞広告（1920年）

たが、大阪駅は官営鉄道東海道線の終着駅、神戸駅へ向かう通過点に過ぎなかった。しかも、梅田は大阪市域に含まれない西成郡曾根崎村に属しており、周辺にはわずかな民家と田畑が広がる寂しい場所だった。それでも、小林三三が梅田にターミナル駅を建設したのは、これからの町は駅を中心に発展すると予見し、このエリアに将来性を見出していたからにはかならない。そして自身が予見した未来をめざすかのように、小林の快進撃が始まるのである。



阪鶴鉄道の重役たち（前列左橋 小林一三）



阪急創業者 小林一三



阪急百貨店機関誌「阪急」創刊号



小林一三が愛用した帽子とステッキ（小林一三記念館所蔵）

温故知新

「大 大 阪 時 代」 を歩く

【第4回】生活文化プロデューサー小林一三が築いた大阪急文化圏・梅田、そしてキタの未来。

1929年（昭和4）、世界初のターミナルデパート『阪急百貨店』が開業した。それは、梅田を一大ターミナルシティへと発展させる壮大な舞台装置だった。

取材協力：公益財団法人阪急文化財団
小林一三記念館
阪急阪神ホールディングス株式会社
エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社

画像提供：池田文庫
橋爪紳也コレクション

梅田阪急ビル第1期竣工（1929年）

昼となく夜となく、多くの人々で賑わう大阪・キタの複合ターミナル梅田は、西日本随一の繁華街である。明治時代、大阪の町外れにすぎなかった梅田の繁栄は、箕面有馬電気軌道（現阪急電鉄）ターミナル・梅田駅の開業と、大大阪時代に梅田駅上に開業した世界初のターミナルデパート『阪急百貨店』によるところが大きい。今もなお、大大阪時代の栄華を受け継ぐ、大阪・梅田。その歴史を振り返る。



梅田駅コンコース（1929年）

町外れの私鉄ターミナルが梅田発展のきっかけに

大 阪市北区の阪急梅田駅を中心に広がる梅田は、阪神、地下鉄、JR各線の駅が立地しており、大阪市の交通の一大要衝となっている。百貨店やホテル、オフィスビル、ファッションビルも林立し、主要道路の地下を網目のように交錯する地下街は人の流れが途切れることはない。劇場や映画館のほか、大学、大学院のキャンパスといった教育・文化施設も充実しており、ビジネスパーソンから買い物客、学生までさまざまな目的を持つ人々が集う。



現在の阪急百貨店うめだ本店

沿線の土地を宅地開発し、庶民に新しい暮らしを提案

1910年(明治43)3月10日、箕面有馬電気軌道は、梅田―宝塚間、石橋―箕面間の運行を開始した。とはいっても、の、電車が走るのは人口の少ない田園地帯で、終着駅の宝塚に呼び物になるものはない。何もなし。

一方、箕面には大滝があるといえ、それほどしよちゆう行くものでもない。しかも、温泉地有馬への敷設計画はまだ先の話。乗客の獲得は一番の課題だった。しかし、そうした問題を独自のアイデアで解決するのが、小林三だ。『「ご乗客は電車が創造する」と、ご乗客を増やす3つの作戦を計画したのです」と仙海さんは言う。



武庫之荘住宅地売出ポスター

第二の作戦は、不動産事業だ。小林は沿線を宅地開発し、それを屋台骨とする経営構想を思い描いたのである。開業前に沿線各所に30万坪の用地を取得し、現池田駅の西側にある呉服神社周辺2万7千坪の土地に、日本初の郊外型分譲住宅地「池田新市街」を開発。電車が開

世界初のターミナルデパートが誕生

乗客を確保し、順調に滑り出した箕面有馬電気軌道は、続いて、梅田と、庶民が憧れるハイカラな町・神戸を結ぶ路線を開通させると、1918年(大正7)、「阪神急行電鉄株式会社」と社名を改め、「阪急」の呼び名で親しまれるようになった。その間も小林は、「ご乗客に喜んでもらうにはどうすればいいのだろう」と考え、頻繁に梅田駅の改札で乗客を観察していたという。

ある日、小林は乗客がたくさん買い物をして電車で帰って行くことに気づく。どこで買い物をしているのかというと、百



小林一三の斬新な発想と事業手腕について語る仙海氏

通すると、一般市民をターゲットに売り出した。

この頃、持ち家に住めるのは富裕層だけで、庶民が家を持つなど夢のまた夢。大阪市内でも、地方から出てきた多くの工場労働者が職場のそばで借家暮らしをしていた。工場が排出する煤煙などの公害に悩まされた人も多かっただろう。小林三はそんな庶民に向けて、「猪名川と五月山の自然に恵まれた田園都市：池田に、郊外住宅を持つてみませんか」と広告したのである。



一三発案による「電車回遊雙六」



京阪神急行電鉄時代の路線図

貨店だ。当時の百貨店といえば、京都大丸、名古屋松坂屋、東京日本橋三越といった江戸時代から続く呉服屋で、いずれも町の真ん中の一等地に店を構えていた。一方、駅は町外れの空き地に造られたため、駅から各店舗までは距離があった。大阪難波にあった高島屋も例外ではなく、梅田から4kmも離れた場所にあったため、店はお客を車で送り迎えていた。



阪急電車伝統のマルーン色とロゴ(小林一三記念館)

同じビル内に開業した阪急直営の洋食専門店『阪急食堂』も、多くのお客を喜ばせた。大正時代は外食といえど、料亭かお茶屋で楽しむ程度で、定食屋のようなものはほとんどなかった。そんな外食文化が発達していない時代に、駅で洋食が食べられるのである。さらに、一皿30銭、定食1円とメニューと値段がはつきりわかる明朗会計も後押しとなり、買い物客や家族連れがハイカラな洋食を楽しんだ。



阪急百貨店ポスター ※橋爪紳也コレクション

なことはない」。そこで第三の作戦として、1920(大正9)、駅のコンコース横に5階建ての阪急ビルを開業。その1フロアに、東京日本橋から白木屋百貨店(現在の東急百貨店)を誘致し、梅田出張所としてオープンした。扱った商品は、食料品や日用雑貨などの必需品だけだったが、「駅で必要なものが買える」と喜ばれ、繁盛する。

この成功を見た届けた小林三は、白木屋の契約満了に伴い、1925年(大正14)、2・3階に自社直営の『阪急マーケット』を開業。立地条件のよさと好景気があいまって、マーケットには大勢の買い物客が訪れた。

段ではない。そこで元銀行マンだった小林は、前職の知識を活かして割賦販売を取り入れた。今でいう、住宅ローンのさきがけだ。こうして、庶民のマイホームの夢を叶えたわけである。

その後、桜井駅周辺や豊中市につくった運動公園と駅の間にも住宅地を開発し、何もなかった駅周辺は町へと変わっていった。同時に、箕面有馬電気軌道は沿線の住民を増やし、梅田への通勤客および通学の固定客の確保にも成功した。今でこそ、運輸業と不動産業は一体となつて事業を展開しているが、その先駆者こそ、小林三だったのである。

さらに小林は、「乗客を増やすためには、お客様が行きたくなるような場所をつくればよい」と、第一の作戦として、開業年に日本で3番目の動物園『箕面動物園』を終着駅の箕面に開園。1911年(明治44)には宝塚に温泉を開業した。その翌年には、温泉の隣にモダンな洋館を建て、国内初の室内プールなどのレジャー施設を集めた『宝塚新温泉パライス』をオープン。1913年(大正2)には婦人博覧会を初めて開催し、後に宝塚歌劇へと成長することになる「宝塚唱歌隊」を組織するなど、多くの計画を矢継ぎ早に仕掛けていった。これらの事業は功を奏し、多くの観光客が箕面有馬電気軌道で箕面や宝塚を訪れ、おいに賑わった。

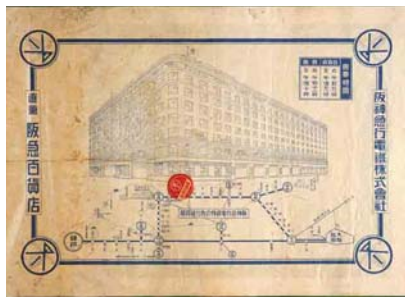


池田付近の線路敷設工事(1909年)

大大阪時代の大衆のニーズを満たした阪急百貨店

順調に集客を伸ばした『阪急マーケット』は、1929年(昭和4)、地上8階、地下2階の大規模拡張を行い、『阪急百貨店』として新装開店した。建物の1階は電車のターミナル、その地階と2階より上階をデパートの売り場とするユニークな構造は、世界初のターミナルデパートとして大きな話題をさらった。

同時期に完成した阪急ビル1階コンコースも注目を集めた。設計デザインは、明治神宮や平安神宮などを手がけ、神社仏閣設計の第一人者としても知られていた伊東忠太。現代建築と近代建築、東西の様の粋を集めた日本最大のターミナルのコンコースは圧倒的な豪華さを誇り、阪神間モダニズムにも影響を及ぼしたと言われている。



阪急百貨店包装紙(1930年)

この頃は、大大阪時代、真つ只中。経済的に余裕ができた庶民には「何か新しいものを買いたい」「どこか新しい所へ行っ



梅田スカイビルからキタ北東方面を望む

阪急と阪神が統合。キタの発展は、さらに未来へと続く。



阪急食堂の車内吊り広告(1923年)

新装開店とともに、人気のあった阪急食堂は眺めのよい7・8階に拡充された。席数は平日1500席、土日には2000席も用意され、週末には5万人ものお客が訪れ大盛況となった。特に人気が高かったのは、ライスカレーである。ランチタイムには多くの人々がその看板メニューを求めて訪れた。

ライスカレーを大衆に広め、外食文化が開花

てみたい」「新しい遊びをしたい」という欲求が芽生えていた。阪急百貨店はそのニーズに応えるべく「いい品をどこよりも安く」とアピールしてファンを増やすことに成功。1936年(昭和11)には、日本最大規模の売場面積を誇る百貨店へと成長するのである。



阪急百貨店8階洋食堂(1935年)

当時、カレーといえば、「飯は皿に盛られ、カレーは別の容器に入れられて運ばれる高級料理だった。一方、阪急食堂では、ライスにカレーをかけて提供しており、お値段もコーヒークッキーで25銭と手頃。「お客様が多かったので、提供しやすく洗いや洗い物も少ない合理的なスタイルにしたのでしょ。このようなライスカレーは町の洋食店でも提供されていましたが、知名度を高めたのは阪急食堂かもしれません」と仙海さんは話す。

このように、電車のターミナル駅の上にデパートをつくって乗客を誘致するというやり方は、大阪の阪神電車をはじめ、関東や九州など多くの鉄道会社へ波及した。こうして阪急は、電車と住宅、百貨店



阪急百貨店(左)と阪神百貨店(右)

貨店が「劇場型百貨店」と「生活情報サービス業」をコンセプトに新装開店すると梅田はさらに活気づき、2013年(平成25)、

JR大阪駅北側貨物駅跡地に開業した『グランフロント大阪』には、関西初出店のショップやグルメ、イベントを目当てに多くの人々が集まるようになった。

そして2022年には、阪神百貨店と隣接する新阪急ビルが、阪神梅田本店とオフィスビルとしてリニューアルオープンする。阪急・阪神が合併によつて新たに生まれるこの施設は、梅田のみならず、大阪の玄関口キタ全体を象徴する建物になるはずだ。

JCI大阪も、キタと梅田の未来を応援しています！



大阪青年会議所では、来たる9月2日(土)・3日(日)の2日間、グランフロント大阪に隣接するうめきた2期B区域を会場にして「マチミラOSAKA2017~Creating the Future~」と題するイベントを開催します！会場では、大阪のソフトパワー(人の力)や大阪の企業が持つ先進技術の体感、AI、IoTなどの最新の技術、また音楽を通じての魅力発信プログラム、子どもの夢を作り出すプログラムなど、大阪のまちの魅力を世界に向けて発信する多彩なプログラムを展開！キタと梅田、そして大阪の未来を応援します。皆さんの多数のご来場をお待ちしています!!

Date 2017年9月2日(土)・3日(日)
Venue うめきた2期B区域: 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町 地内

後援: 大阪府、大阪市、公益財団法人大阪観光局
アドバイザー: 大阪府立大学観光産業戦略研究所所長 橋爪紳也氏



の複合的な事業展開で梅田を牽引し、大阪を華やかに彩ったのである。

戦後、大衆文化が復興し、新しい文化の発信拠点に

阪急の事業が順調に成長する一方で、「大大阪」は第二次世界大戦後の恐慌や昭和恐慌、そして第二次世界大戦によつてその繁栄に影を落とし始める。しかしその間も小林三三は、劇場の開場、映画産業への進出を果たし、映画の製作・配給・興業、演劇興行の「貫経営を行う『東宝』を設立するなど、文化芸術事業にも力を注いだ。

戦後は、梅田にOS映画劇場、大阪ミナミに南街劇場を、1956年(昭和



『宝塚グラフ』小夜福子特集(1939年)



宝塚歌劇団渡欧記念アルバム『日伊合作映画蝶々夫人』(1955年)

31)には梅田コマ劇場を開場し、戦後の大衆文化の復興に貢献。さらにテレビ時代の到来を予見し、産経新聞社会長らとともに「関西テレビジョン放送」の発行人代表に加わるなど、1957年(昭和32)の永眠直前まで小林は精力的に活動し、大阪の発展と未来に大きく寄与した。



小林一三の家族 後列右・一三 前列中央・こう夫人(1917年)



小林一三記念館外観

劇場のモダニズム

※画像提供: 橋爪紳也コレクション

昭和7年、小林三が率いた阪神急行電鉄（現・阪急電鉄）は、東京への進出をはかるべく、株式会社東京宝塚劇場を設立する。東京宝塚劇場のほか、有楽座、日本劇場、帝国劇場を傘下に収め、日比谷に劇場街をかたちづくる。浅草の劇場群を手中に収めていた松竹とともに、帝都の興行界を二分した。

「大大阪」の時代、同様の競合が大阪でも見受けられた。阪急は、映画制作と配給を担う東宝を創立するとともに、梅田で劇場経営を開始する。

1 北野劇場と梅田映画劇場

阪神急行電鉄は、株式会社梅田映画劇場を設立、阪急百貨店に隣接する1800坪の用地に、劇場と複数の映画館に、食堂街などを併せもつ複合的な興行施設を計画した。

昭和12年12月9日、まず複合的なアミューズメント施設の中核に位置づけられた北野劇場が開場する。1600人収容の新しい劇場は、まわり舞台の中央部分がセリ上がると機構を導入するなど、当時としては画期的なものであった。米国のラジオ・シテイに範をとった「近代式」であると自慢した。



宝塚歌劇団公演案内(1941年)

地上4階、地下2階のビルディングには、食堂のほか、竹葉亭、スエヒロ、サントリパーなども店を構え、地下には遊戯場もあった。昭和12年の年末には、隣地の梅田映画劇場、梅田地下劇場もオープンする。

幾何学的な構成美をもつモダニズムの建築デザインが話題となった。新築落成記念の絵葉書を見ると、ドアの上方に劇場の外観を描くアートが飾られている。また観覧券や包装紙のデザインにも、建物が意匠化されている。



北野劇場公演パンフレット(1938年)

演劇研究雑誌『東寶』第48号（昭和12年12月）に掲載された北野劇場の開場予告には、「大阪市における道頓堀以北、及び北攝阪神間の都會人、郊外居住の方々には場所的にも、至極便利であり、且つ明朗快適なアミューズ

メントの施設として、大きな意義を持つものと信じて居ります」とある。



雑誌『陽春の日本映画』

市内だけではなく、阪神間の郊外住宅地に住む人々を吸引しようとしたことがわかる。西田眞三郎は同誌に文章を寄稿、「舊い殻を脱いだ近代の大阪は北野劇場を如何に迎へるでせうか。京阪神を極く短時間で往復し得るそれらの土地の人々に新たな魅力でありませう。況して寶塚までも大阪人を引き寄せる阪急系の経営ですから、うんと秘策があるでせう」と、新しい劇場への期待を述べる。

2 ターミナルの興行文化

梅田に出現したこの「連繋映画館」の出現は、大阪の興行界にセンセーションをまきおこした。高谷伸は「北大阪の枢軸」と題した小文を同誌に寄稿、「大阪劇場を統一覇を誇つてゐた松竹にとって、敵國の出現たることは否めない事實である」と指摘、「由来競争のない所に進歩は望まれない」と歓迎の気分を表明している。

従来は道頓堀や千日前に劇場が集中、主要な興行場の多くが、松竹の傘下にあった。それに対抗するべく阪神急行電鉄は、東宝映画を設立して系列の劇場に作品を配給する体制を整えた。あわせて交通が便利な梅田のターミナルに隣接する場所に、内外の映画に加えて、レビューや芝居を上演する興行施設群を建設した。

新規に開業した北野劇場に、大阪の文化人や演劇関係者は何を期待したのだろうか。作家の藤澤桓夫は「明るい劇場」で「大阪の寵児秋田實君のユーモア物などを新しい形式」で上

演して欲しいと希望している。また西田眞三郎は「藝術的な香り高いもの」も望ましいが、むしろ「大衆的な狂言を」と要望する。

中川龍は、関西の観客の好みは「利那主義的快楽派」ではなく「実証主義的進取派」であり、特に北野劇場の立地から観客層は知識階級になると推測、「高級な面白さ」を提供するべきだと主張する。具体的には、知識人が愛好する外国映画の「面白さ」を狙った劇、「文藝春秋」や「新青年」などに掲載された文学作品を再現する舞台などが良いのではないかと例示する。さらには、時には採算を度外視した「藝術的水準の最高を目指す演劇」も公演も欲しい。また大歌劇や曲馬団など大規模なスペクタクルも「策と提案」している。

北野劇場では、宝塚少女歌劇や日劇ダンシングチーム、古川緑波一座などの興行が人気を集めた。このモダンな劇場が、「大大阪」における興行文化の新たな拠点となり、梅田のターミナル文化の中心となる。その良き伝統が、戦後のOS劇場や梅田コマ劇場、さらには現在の梅田芸術劇場、シアター・ドラマシティに継承されているわけだ。



橋爪紳也 はしづめしんや
大阪府立大学
大学院経済学研究科 教授
観光産業戦略研究所 所長



戦後オープンした梅田コマスタジアムと北野劇場(1956年) ※阪急文化財団提供

この店、この一品。

【第4回】シャンデリアテーブル

(阪急うめだ本店13階)

国産牛ロースステーキ

1929年（昭和4）、日本初のターミナルデパート『阪急百貨店』の開業後、1931年に建築界の巨匠、伊東忠太氏の設計デザインによるコンコースが完成した。アーチ型の天井、東西両端の日と月、四隅の青龍、朱雀、白虎、玄武のモザイク壁画を配した優美な空間は、多くの建築ファンを魅了した。その意匠はうめだ本店の建替に伴って姿を消したが、グランドオープンに伴って、グランドカフェ&レストラン『シャンデリアテーブル』に移築され、そのゴージャスでロマンチックな姿が百貨店13階に美しく再現された。

メインホールは、アーチ型天井と高さ約3.5メートルにも及ぶ全面24金仕上げのシャンデリア、モザイク壁画が彩るさらびやかな大空間。幾つもの円卓が店内全体にゆとりを持って配置されており、かつての大食堂の趣きを感じられる。さらに奥には、スタイリッシュなサンルームとゆったりとくつろげる開放的なテラス席が広がり、ここが百貨店の中であることを忘れそうになる。

開放感にあふれ、非日常の感覚を楽しめるそんな同店の看板メニューは、「国産牛ロースのステーキオニオンガーリックソース」。食べごたえのある国産牛が使われており、パンチの効いたガーリックソースが食欲をそそる。「添え物の野菜は、飽きることなく召し上がっていただけるよう、それぞれ味付けを変えています」と店長のチャーリーさん。スープとサラダ、パン（orライス）、ドリンク付きで、パンはおかわり自由というサービスもありがたい。子ども同伴で食事を楽しめるようお子さまランチも用意されており、週末は家族連れで訪れるゲストは多いそう。

デザートには、フワフワのシフォンケーキに、生クリームとキャラメルソースをトッピングした「エンゼルフードケーキ」がおすすめ。ボリュームたっぷりなので、お腹を空かせて訪れたい。



ゴージャスでロマンチックな空間の中で楽しむ上質ランチ。



グランドカフェ&レストラン シャンデリアテーブル

大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店13階
電話番号:06-6313-1530
営業時間:11:00~22:00
定休日:不定休(阪急うめだ本店に順ずる)

◆特別企画◆
天神橋筋商店街
×
天満天神繁盛亭

上方文化を支えた、 町人たちのエネルギー。

大阪の夏を彩る天神祭の舞台、天満天神エリア。
今も昔ものにぎわいの絶えない日本一長い商店街、
人の力が集結し約60年ぶりに復活した落語の定席、
江戸時代から脈々と受け継がれる町人文化。
今も昔も町人たちが支え、発展させてきた、
「これぞ大阪！」というべき天満天神の魅力に迫る。



「天下の台所」として 栄えた江戸時代

天神橋1丁目から7丁目まで全長2.6km。
日本一長い商店街として知られる『天神
橋筋商店街』。ここは人々の暮らしの場であり、
今もつと大阪らしい町として、国内外から
注目を集めている。では、なぜ天満天神エリアは、
こんなにも賑やかな町になったのか。それを紐解く
には平安時代まで遡る。菅原道真公の魂を鎮める
ために祭られた北野天満宮に続き、天満の地に
大阪天満宮が建てられたのは949年のこと。
その後、天満宮を中心とした門前町が形成
される。さらに江戸の時代には、水上交通の要所
である大川の周辺に問屋街や青物市場が集積。
「天下の台所」を象徴する地域として“大阪”の
経済を支えていく。



人の力が築いた 60年ぶりの定席

ようやく左手に天満宮が見えてきた。大きな
門をくぐると目の前に荘厳な神殿が
現れる。普段は静かな境内だが、天神祭前とも
なると人も多く、うねるような町の熱気が感じ
られるようだ。江戸時代、境内には八軒の寄席
小屋があり「天満八軒」と呼ばれた。また、天満宮
の連歌所宗匠だった西山宗因の下で井原西鶴が
学び、近松門左衛門が近くに居を構えるなど、
ここを拠点に町人の上方文化が開花した。
現在、天満宮に隣接するのは、上方落語の拠点
「天満天神繁昌亭」である。60年ぶりの定席として
2006年に誕生。官の力に頼らず民の力だけで
設けられた繁昌亭は、町の誇りとして商店街の
人々から愛されている。ふと気づけば夕暮れ時、
町はすっかり夜の顔だ。いつのまにか繁昌亭の
提灯の灯りが消えている。夜の寄席が始まった
合図だ。今宵も落語家たちの芸が場内を大いに
湧かせることだろう。長い時を経て町人たちが
育んだ文化にぎわいは、時代と共に変化しな
がら、これからも町人たちの手によって脈々と
受け継がれていく。

戦後の闇市が 再出発のきっかけに

では、実際に天神橋筋商店街を歩いてみよう。
北の玄関口「天神橋筋六丁目駅」を地上に
上がると、狭い道幅の両側にひしめくように店が
並ぶ。自転車を押して買い物する人、昼間から一杯
やっている人など、そこには気取りのない日常の
風景が広がっている。この駅のルーツは正統の時代
に開業した「新大阪鉄道天神橋駅」、始発駅として
大阪市電の乗り継ぎ駅として大いに賑わったそう。
アーケードをしばらく歩くと「JR天満駅」に出る。
駅前にはかつての青物市場、天満市場が広がっており、
新鮮な食材を求めて今も多くの人々が足を運ぶ。
昭和20年、天神橋筋商店街は大阪大空襲では消
失。戦後、この2つのターミナル駅周辺が闇市
として発達したこと、商店街は2つの駅に挟ま
れた6、5、4丁目あたりから徐々に復興して
いった。道幅や店の間口が狭いのは、その名残だった
のだ。さらに南へ進むと天神橋3丁目だ。地図を
見ると「与力町」や「同心町」という町名が並び、
江戸期、この辺りに大坂奉行所を中心として武家
屋敷が並んでいたことが伺える。「南森町駅」と
「JR大阪天満宮駅」が地下で重なる横断歩道を渡
ると、船渡御を飾るお迎え人形が出現してくる。
ここから2丁目、1丁目と続き、いよいよ大阪天満宮
の参拝道という赴きが深まっていく。



時代を超えて受け継がれる、 刀鍛冶の技と心意気。



探訪●浪速の名匠

【第四回】本家 國重刃物店

お話し 八代目店主 水田裕隆さん

多種多様な店が軒を連ねる天神橋筋商店街で、ひとときわ目を引く店舗があります。店先のショーウィンドウにありとあらゆる刃物が並び「國重刃物店」です。天満の地に創業しておよそ240年。江戸から明治、そして平成の世へ、時代の波に柔軟に対応しながら、刀鍛冶の技と高い品質を守り受け継ぐ八代目にお話を聞きました。

数々の困難を乗り越えた 天満天神繁昌亭は「奇跡」でした。



天満天神繁昌亭の開席から早10年以上が過ぎました。私は構想時から関わりましたが、当時の桂三枝師匠（現在は文枝）のお手伝いをしたに過ぎません。師匠には構想力と発信力、行動力、そして人を惹きつける「磁力」があった。師匠がいなければ、このプロジェクトは成功しなかったでしょう。

上方落語界悲願の定席をどこに作ろうかというとき、大阪府から紹介してもらった商店街の一つが天神橋筋商店街です。当時の土居年樹理事長が引き受けてくださったのが事の始まりでした。そこからは会議の連続で、府、市、上方落語協会、天神橋筋商店街、そして商工会議所からは私が出席し、いろいろな話し合いをするのですが、時には揉めることもありましたね。最初、テント小屋のような設計が上がってきたんです。資金が限られていたので仕方ないのですが、師匠は「絶対あかん」。着物で来てもらえるような建物にしたいと。長く続かなければ意味がないという、一つの覚悟だったのだと思います。

やっとの思いで浄財を集め、開席したもののお客様が入るか不安でした。しかし、これは大きな見込み違いで、繁昌亭は「落語」という素晴らしいコンテンツの固まりだった。これは作ろうと思っても作れません。また、自分たちで作った小屋だから、落語家はここを守るために一所懸命に頑張るわけです。繁昌亭に出ることが誇りであり、若手や中堅はここでトリを務めれば一流と言われる。つまり、ホームグラウンドですね。東京の定席には経営者がいますが、繁昌亭は運営も番組を作るのも協会がやる。こんな小屋は日本中探しても見当たりません。

繁昌亭には連日落語ファンが押し寄せ、弟子入り希望者も増えていると聞きます。落語の裾野が広がったことは間違いありません。そして、商店街の人たちも喜んでくれている。繁昌亭を核に上方落語がますます元気になることを、これからも信じています。

民が動いてコトを動かす。 これぞ、大阪の「反骨精神」。



天神橋筋商店街連合会の会長を長く務めた土居年樹さんと一緒に、商店街を盛りあげる施策を重ねてきました。当時の桂三枝師匠から「落語の定席を」というお話があった時は、私たちから天満宮の宮司さんに声を掛けさせてもらい、「本気なら駐車場の敷地を提供しますよ」とご厚意により無償で借り受けることができました。

土地はあるけれど建設費はゼロでしたから、チャリティー寄席を催したり、募金箱を持ってイベントに参加したり、落語家さんと一緒に募金活動に奔走しましたね。「地元」の商店街が親身にならんとあかん」と土居さんがよく言っていました。そして、最後は2億4千万円もの浄財が集まった。官は一円も出していません。すべて、企業や市民の皆さんが寄付してくださった。民が動いてコトを動かす。これぞ、大阪の反骨精神やないでしょうか。繁昌亭は、私たちの自慢です。

天神橋筋商店街は町ごとに分かれていて、それぞれが張り合いながら、切磋琢磨しながら前に進んできました。昭和20年の大空襲ですべて焼けましたから、皆でゼロから頑張ってきたんです。私たち天神橋筋三丁目「他とは違うことをせなあかん」といろんなことをしてきました。昭和50年代に空き店舗を買い取って、自分たちでカルチャーセンターを開いたのも一つです。寄席やコンサートを開いたり、プロのモデルを呼んでファッションショーをしたり、しまいにはお化け屋敷まで(笑)。全部、自分たちの手でやりました。今思えば、文化や芸能を受け入れる土壌は、その頃に作られたのかもしれない。

最近キタの開発が進み「お客さんを取られませんか?」とよく聞かれますが、まったくそんなことはありません。キタですましてお買い物をしてきた人が、ここでは庶民の顔になって野菜を買って帰る。もう次元が違うんですね。そして、いちばん大阪らしい顔をしているのが、この商店街なんやないかなと思います。

大塩平八郎が愛用した 脇差に「國重」の銘



父である七代目水田國重の雄一朗さんと

先祖は代々備中の刀鍛冶で、今からおよそ240年前の江戸時代に天満に移り住みました。大阪にきて私で八代目、備中時代から数えと十五代目になります。天保年間に大坂町奉行所が天満にあつたそうで、与力だった大塩平八郎が愛用したという國重の銘が刻まれた脇差が残っています。祖父の代までは刀を作っていました。明治維新の廃刀令の後は銚や包丁といった打ち刃物を手掛けるようになりました。かつてこの界限は繊維工場が多く、裁ち銚や布裁包丁などがよく売れたそうです。私が幼い頃は傘屋や下駄屋など物を売る店が多かったのですが、近ごろは少なくなりました。代わりに人が住むようになり飲食店が増え、最近は家庭用の包



全ての包丁に「刀治 國重作」の銘刻が誇らかに刻まれる

丁や料理人向けの包丁が主流になっています。それでもまだこの辺りには華道の先生や能面師、仏師の方がいらっ



研ぎ方で切れ味が変わってくる

り、刺身包丁といった和包丁はプロの料理人の方にも使っていたいて、ミシュランに載るような京都の名店からもらつています。「この包丁はいいよ」と外国人のシェフを連れてきてくださったこともあり。家庭用の包丁も切れ味で選ぶなら、やはり昔ながらの鋼がおすすです。ただし、長く使うには手入れが大事。店には毎日、たくさんのお客様がメンテナンスに刃物を持って



本家 國重刃物店

大阪市北区天神橋3-2-36
TEL:06-6351-7170
営業時間／10:00～19:00毎週火曜、第2・第4水曜定休



奥様の絢(こう)子さんと

天神橋筋に向けて灯が燃える

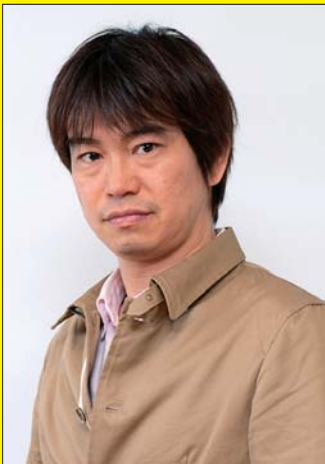
◆ インタビュー 天満天神、語りびと ◆

大阪商工会議所 地域振興部長 堤 成光さん
繁昌亭の構想時からプロジェクトに関わり、2009年に行程を記録した「奇跡の寄席」(140B)を出版。現在は大阪商工会議所 地域振興部長として、大阪万博の誘致などに取り組んでいる。

おも や とし ひろ

天神橋三丁目商店街振興組合 重矢 錐宏さん

天神橋筋商店街連合会 元副会長。同会長の故・土居年樹氏と共に2005年より天満天神繁昌亭開設準備委員会として繁昌亭の開席に尽力。現在も商店街の活性化に取り組んでいる。



INTERVIEW 03 榎原健太郎氏

プロフィール

株式会社アクシブドットコム創業期に営業統括として活躍。その後、株式会社電通ワンダーマンにてダイレクトマーケティング戦略に従事。2008年、株式会社サムライインキュベーター設立。2014年5月、イスラエルに現地ブランチ設立。日本とイスラエルの100社ほどのスタートアップの社外取締役/アドバイザーを兼務している。

Q1：「世界を変える人に共通する9つのマインド」があると伺いました。ご教示頂けますか？

- A1**：1. 誰に対しても、礼儀正しい
2. 誰に対しても、感謝する
3. 誰に対しても、約束を守る
4. 誰もが嫌がる・怖がることを先んじてする
5. 仲間のためなら、何でも手助けする
6. お金でなく、名誉に重きを置く
7. 両親・先輩・上司を大切にする
8. 常に目標値を1000%以上置いている
9. 常に楽しく、元気、前向き、成功イメージを持っている

Q2：なるほど。大変に前向きなマインドばかりですが、このマインドを育てるにはどうしたらいいのでしょうか？

A2：一言で言うと「できるできないではなく、やるかやらないか。」です。つまり、本気で取り組むということです。本気でやらなければ何事も成功しませんから。



INTERVIEW 04 田中邦裕氏

プロフィール

1996年、国立舞鶴工業高等専門学校在学中にさくらインターネットを創業。
1999年、法人化。
2005年に東証マザーズ、
2015年に東証1部上場。
インターネット業界発展のため、各種団体に理事や委員として、またパラレルアントレプレナーとしても多数参画。

Q1：単刀直入になりますが、大阪を元気にするにはどうしたらいいと思われますか？

A1：元気が元気でないかというのは心の持ちようという部分も大きいと思います。そういう意味では、大阪人も周囲の人間も元気にするブランディング戦略を行うことだと思います。

Q2：具体的にはどんな方法がありますか？

A2：大阪に外から多様な人を呼び込んで様々なアイデアが集まるようにし、多様性を高めることが重要です。具体的には、大阪に古くからある大企業や中堅企業とスタートアップが交流し協働し合える環境を創れば、新しいパラダイムが生まれ、活力が創造されます。これを聞いて日本中の地方の様々なスタートアップが集まるようになれば、東京でも福岡でもない価値が大阪に生まれ、大阪は俄然元気になります。



INTERVIEW 01 椎木里佳氏

プロフィール

株式会社AMF 代表
2013年中学校3年で(株)AMF設立。
2014年全国80名的女子中高生からなるマーケティング部隊「JQJK調査隊」を組織し、主力事業に。
2016年「フォーブス・アジア」の「30歳以下の世界が注目すべき30人」の1人選出。
慶應義塾大学在学中。
講演実施日：7月1日（学生コースのみ）

Q1：大阪で起業することの優位性はあると思いますか？

A1：大阪の人たちってフレンドリーでコミュニケーション力も高いので、一緒にチームでやっていく上ですごくやりやすいと感じます。

Q2：椎木さんは高校生で起業されたわけですが、早く起業することの利点は何でしょうか？

A2：いいことだらけだと思いますよ。学生のうちは失うものが何もないし、守らなければならないものも少ない。失敗してもいろいろな道があり、取り返せる。だから若いうちにいろいろ経験しておくことはすごくメリットだと思います。

Q3：起業マインドを育む点では何がポイントですか？

A3：起業に対して消極的な意見を言ったり止めるよう忠告する人もいます。そういうネガティブな意見に影響されないように、なるべくポジティブな考え方をする人を自分の周囲に置くことだと思います。



INTERVIEW 02 北垣和彦氏

プロフィール

大阪工業大学
ロボティクス&デザインセンター 室長
1986年 大阪大学工学部卒業
同年 松下電器貿易株式会社入社
2003年 パナソニック社内ベンチャー「イズマ社」社長
2008年 パナソニック社長プロジェクト
ロボット事業化推進プロジェクト事業企画リーダー
2015年より現職

Q1：現在ロボットが注目されている理由、その重要性は何でしょうか？

A1：ロボットを導入することによって社会の生産性を高められること、これがロボットが社会に対して果たす重要な役割です。かつて日本の生産性は世界4位でした。それが今25位にまで落ちています。ロボットの目的は、社会のシステム全体の生産性を上げることです。例えば今、人口減少社会になっていますが、社会における問題は社会の高齢化が進み、同時に出生率が低くなることで、社会全体の生産性が低下することです。ここに自動化ロボットを導入して社会全体の生産性を向上させることができ、それによって女性の社会進出と育児の両立が可能になり、結果出生率も上がり、生産力人口を取り戻すことができるわけです。



Global Academy Osaka ～スタートアップチャレンジ!!～

多彩な社会人講師陣、魅力あふれる体験プログラム、
多くの仲間との出会い。あなたも、未来の自分を、社会を、
そして世界を変えるきっかけを手に入れてみませんか？

大阪青年会議所では、大学生と若手起業家が一緒になって、社会に山積する課題の解決に向けたビジネスモデルの構築に取り組むワークショップ講座「Global Academy Osaka」を主催しています。受講者の皆さんには、多彩な講師陣、大阪の歴史や異文化の魅力を体験できるプログラム、そして、志を同じくする仲間との出会いを通じて、これからの社会を牽引するリーダーシップを身に付けていただきます。今年度の社会人講師としてお招きした中から、左記の4名の方々のインタビューの一部をご紹介します。



お知らせ
information

「9/3(日) Global Academy Osaka マチミラ OSAKA 2017 公開プレゼンテーション DAY」



学生と社会人の垣根を越えて、IoTやAI、ビッグデータなど先端技術を駆使して社会課題を解決し、世界をより良く変えていくためのビジネスモデル立案に向けたプログラムを展開！

9/3(日) 10時30分から、うめきた2期B区域（大阪市北区大深町地内）内の特設ステージにて、公開プレゼンテーションを実施予定！

受講生が議論を重ね、磨き上げて来たビジネスモデルを発表し、ピッチコンテストを開催します。なんと審査員にはあの人が！

世界を変えるかもしれないアイデアにどうぞご期待ください！！

OSAKA ええとこ撮り フォトコンテスト

第4回応募テーマ

「大阪の夜景」

大阪市内で撮影した「夜景」の写真を募集します！
応募の詳細はホームページにて

大阪青年会議所 検索



募集期間: 2017年7月1日～8月31日

第3回フォトコンテスト「若々しい大阪(大阪人)」結果発表!!

若々賞(大賞) 1名



笠井 忠 様
(大阪市)
「大阪駅前花の
オアシス」

劇団四季賞 2名



前 恵美 様
(和歌山市)
「三世代に
わたって」



池田 慎也 様(大津市)
「集まれえ!!」

OsakaFunFunClub賞 2名



河本 憲吾 様
(八尾市)
「きや???!!」



高橋 一吉 様
(神戸市)
「若さ弾ける
ギャル神輿」

編集後記

Sencia2017年7月号をお楽しみ頂けましたでしょうか？
今号の2大コンテンツは、連載の特集「大大阪時代」
の第4回目となる梅田&キタの8ページにも及ぶ長編
記事展開、そして、日本一長い商店街天神橋筋商店
街×上方落語の殿堂・天満天神繁昌亭の物語でした。
民の活力が生きた大阪人の心意気を感じさせる取材
&インタビュー記事、いかがだったでしょうか？折しも

今号の発行日は水都・大阪の夏を彩る風物詩「天神
祭」の最終日。クライマックスに大川上に打ち上げら
れる数百発の花火がナニワの夜空を美しく華やかに
輝かせていることでしょう。さて、次号はもう秋の入口
の9月号。発行はまたまた中旬頃です。今号に引き続
きどうぞお楽しみに！



Junior Chamber International Osaka
一般社団法人 大阪青年会議所

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-30 オーク4番街401号室
TEL 06-6575-5161 FAX 06-6575-5163 www.osaka-jc.or.jp/

スマートフォン版



MACHI MIRA
OSAKA 2017
Creating the Future
9/2・3
うめきたサザンパーク umeきた2期B区域
入場 無料



マチミラOSAKA 検索

9/2 土 Time Schedule	タイムスケジュール
9:00	ドローンレース予選
11:00	オープニングセレモニー
12:00	M-1プロジェクト
12:30	演舞書道パフォーマンス!
13:30	アーティストステージ 「かりゆし58」
14:00	まちづくり意見交換会「やってみなカフェ」
15:30	世界を渡るハーモニー!
16:00	ULTRA VOTE ファッションショー
17:00	チアダンスパフォーマンス
18:00	アーティストステージ 「ET-KING」
18:30	ドローンレース決勝

9/3 日 Time Schedule	タイムスケジュール
10:30	「世界を変えるビジ・コン!」～ビジネスモデル・コンテスト～
13:15	紙こより絵画パフォーマンス!
13:45	ラグビーワールドカップ2017PR
14:15	国技!相撲体験!
14:45	子どもたちに歌で届けのメッセージ!
15:15	世界記録チャレンジ
16:00	アーティストステージ 「TEE」
16:30	特別講師講演
18:00	クロージングセレモニー

開催イベント

- アーティストによるライブパフォーマンス**
参加予定アーティスト: ET=KING、かりゆし 58、TEE
- 学生団体こいや祭実行委員会によるオープニングセレモニー**
「感動と交流」「みんなで創るみんなのお祭り」
「非日常空間での踊る祭り」の3大コンセプトのもとに、
100名規模のよさこいを披露!
- 市民の皆さんと共に！ギネスへ挑戦！**
使用済切符を再利用して、大阪を代表する建造物資産
「通天閣」や「大阪城」のモザイクアートを作成。
目標の大きさは、世界最大の約25㎡!
大阪市民の皆さんと共にギネス記録に挑戦!
- 大迫力！ドローンレース開催！**
VRを装着したプレーヤーが障害物を前に競う大迫力のドローンレースを
予選・本線の2部構成で実施!
- Konamon フェスタ～大阪の“SoulFood” 粉もん！～**
たこ焼き、お好み焼きなど、大阪の粉もん文化とアジアの粉もん文化を
楽しめる飲食ブース出展!

講演会・発表イベント

- 世界で活躍するリーダーから学ぼう！～特別講師講演開催～
- 大阪のまちの課題解決発信「まちづくり意見交換会やってみなカフェ」
- 新技術体験ブース、各企業・大阪青年会議所ブース



第29回 なにわ淀川花火大会

夏だ！花火だ！
なにわの夢を大空に！

日時：(花火大会) 2017年8月5日(土) 19:40～20:40
(翌日清掃) 2017年8月6日(日) 8:00～10:30

場所：右岸会場 新御堂筋より淀川大橋までの間の淀川右岸河川敷
左岸会場 十三大橋より淀川大橋までの間の淀川左岸河川敷



当日ボランティア・翌日清掃ボランティア募集

- 8月5日(土) 当日ボランティア
時間:14:00～22:00終了予定 応募資格:18～40歳まで(男女不問)
【男性】誘導・救護所タンカ隊での救急傷病者の搬入・搬出など
【女性】案内・お弁当配布・救護所にて迷子者の対応など
- 8月6日(日) 翌日清掃ボランティア
時間:8:00～10:30終了予定 応募資格:男女年齢不問
花火大会終了後の河川敷の大量のゴミを拾い、綺麗な河川敷に戻します。

お知り合いの方でボランティアへの参加をご希望される方が
いらっしゃいましたら、下記エントリーフォームよりお申込みをお願いします。

ボランティア
エントリーフォーム



なにわ淀川花火大会
実行委員会ホームページ

